

(社)長野県環境保全協会 共同調査

「環境～ わたしのエコ行動」 報告書

(2009年11月26日～2010年1月12日調査)

| | |
|-----------|---|
| 調査の設計 | 1 |
| 結果の概要 | 4 |
| 今回調査のポイント | - |
| 各問の結果 | - |
| 付表 自由回答 | - |
| 単純集計 | - |
| 調査票 | - |



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

注：より詳細な内容（今回調査のポイント～調査票）は会員向けに提供しております。
会員外の場合は有料となります。詳しくは上記までお問い合わせください。

I 調査の設計

調査の目的

長野県世論調査協会と長野県環境保全協会は、これまで共同事業として、地球温暖化を中心テーマに、一般市民や高校生および企業の環境保全の意識、取りくみの世論調査を継続的に探ってきた。

「環境」は京都議定書や洞爺湖サミットを通じて、日本が国際的リーダーシップを期待される数少ない分野であり、低公害車開発に象徴される「環境と経済の両立」をめざす技術力は、こんご国際経済を牽引するカギとして注目される。

その一方で、個々の市民レベルの「環境とライフスタイル」の結びつきは、循環・成熟・安心の社会づくりのキーポイントであり、あらためて「自分で何が可能か」を県民各層のエコ行動を探ってみた。

調査の設計

| | |
|------|---|
| 調査対象 | 県内に住む20歳以上の男女800人 |
| 抽出方法 | 層化三段無作為抽出法。県下“有権者の縮図”となるように、東北中南の4地域に分け、一定のルールで選定した市町村の選挙人名簿をもとに抽出した。 |
| 調査方法 | 郵送配布・回収（一部ファクス・インターネット） |
| 調査期間 | 2009年11月26日～2010年1月12日 |
| 調査地点 | 19市 10町 6村 |

回収結果

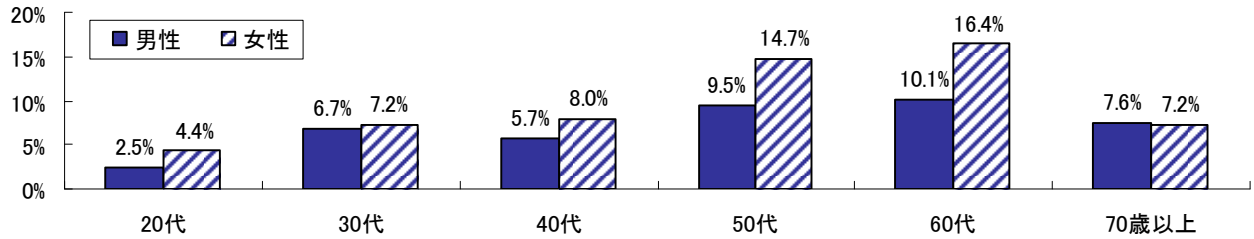
| | |
|-------|--|
| 有効回収数 | 475人（回収率59.4%＝男性200人 女性275人） |
| 回収内訳 | 郵送 430（90.5%） ファクス 27（5.7%） インターネット 18（3.8%） |
| 調査主体 | 社団法人長野県環境保全協会 社団法人長野県世論調査協会 |

<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

回収サンプルの内訳

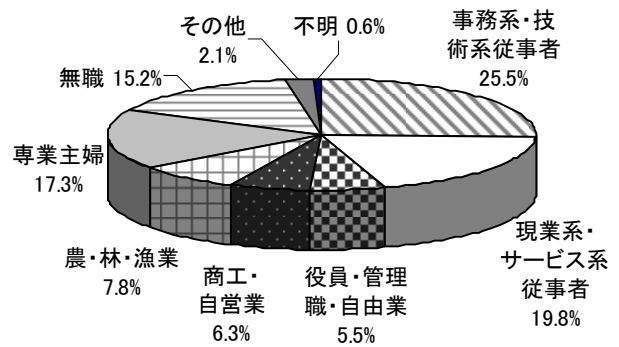
【性別と年代】

| | 全体 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70歳以上 |
|----|---------------|------------|-------------|-------------|--------------|--------------|-------------|
| 全体 | 475 100.0% | 33 6.9% | 66 13.9% | 65 13.7% | 115 24.2% | 126 26.5% | 70 14.7% |
| 男性 | 200 42.1% | 12 2.5% | 32 6.7% | 27 5.7% | 45 9.5% | 48 10.1% | 36 7.6% |
| 女性 | 275 57.9% | 21 4.4% | 34 7.2% | 38 8.0% | 70 14.7% | 78 16.4% | 34 7.2% |



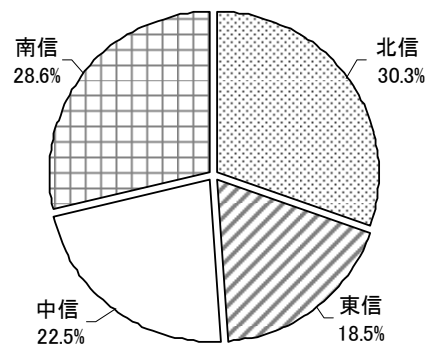
【職業】

| | | |
|--------------|-----|-------|
| 事務系・技術系従事者 | 121 | 25.5% |
| 現業系・サービス系従事者 | 94 | 19.8% |
| 役員・管理職・自由業 | 26 | 5.5% |
| 商工・自営業 | 30 | 6.3% |
| 農・林・漁業 | 37 | 7.8% |
| 専業主婦 | 82 | 17.3% |
| 無職 | 72 | 15.2% |
| その他 | 10 | 2.1% |
| 不明 | 3 | 0.6% |



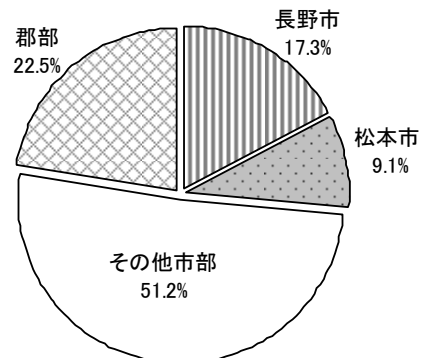
【地域】

| | | |
|----|-----|-------|
| 北信 | 144 | 30.3% |
| 東信 | 88 | 18.5% |
| 中信 | 107 | 22.5% |
| 南信 | 136 | 28.6% |



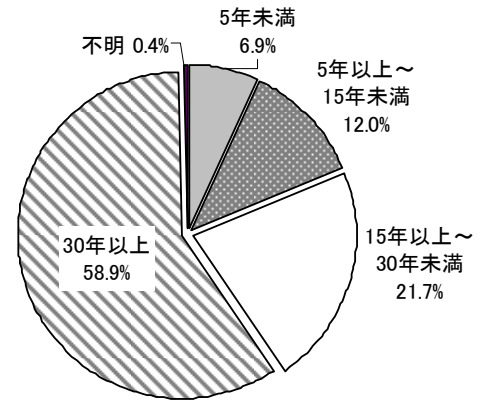
【市郡】

| | | |
|-------|-----|-------|
| 長野市 | 82 | 17.3% |
| 松本市 | 43 | 9.1% |
| その他市部 | 243 | 51.2% |
| 郡部 | 107 | 22.5% |



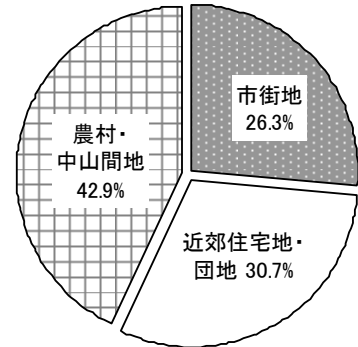
【居住年数】

| | | |
|-------------|-----|-------|
| 5年未満 | 33 | 6.9% |
| 5年以上～15年未満 | 57 | 12.0% |
| 15年以上～30年未満 | 103 | 21.7% |
| 30年以上 | 280 | 58.9% |
| 不明 | 2 | 0.4% |



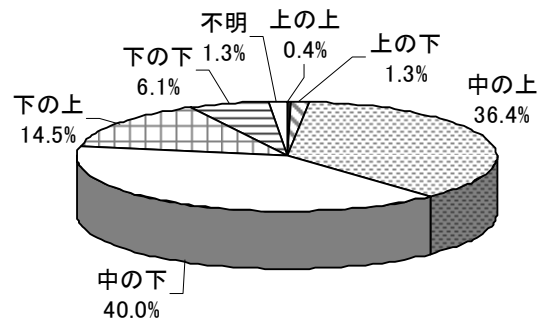
【地域性】

| | | |
|----------|-----|-------|
| 市街地 | 125 | 26.3% |
| 近郊住宅地・団地 | 146 | 30.7% |
| 農村・中山間地 | 204 | 42.9% |



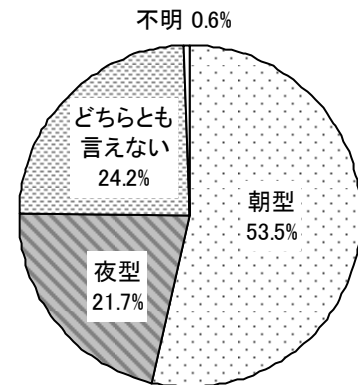
【暮らし向き】

| | | |
|-----|-----|-------|
| 上の上 | 2 | 0.4% |
| 上の下 | 6 | 1.3% |
| 中の上 | 173 | 36.4% |
| 中の下 | 190 | 40.0% |
| 下の上 | 69 | 14.5% |
| 下の下 | 29 | 6.1% |
| 不明 | 6 | 1.3% |



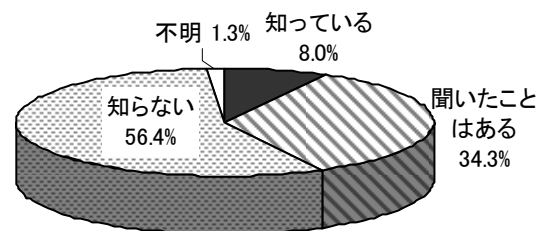
【あなたの生活は？】

| | | |
|-----------|-----|-------|
| 朝型 | 254 | 53.5% |
| 夜型 | 103 | 21.7% |
| どちらとも言えない | 115 | 24.2% |
| 不明 | 3 | 0.6% |



【長野県環境保全協会を】

| | | |
|----------|-----|-------|
| 知っている | 38 | 8.0% |
| 聞いたことはある | 163 | 34.3% |
| 知らない | 268 | 56.4% |
| 不明 | 6 | 1.3% |



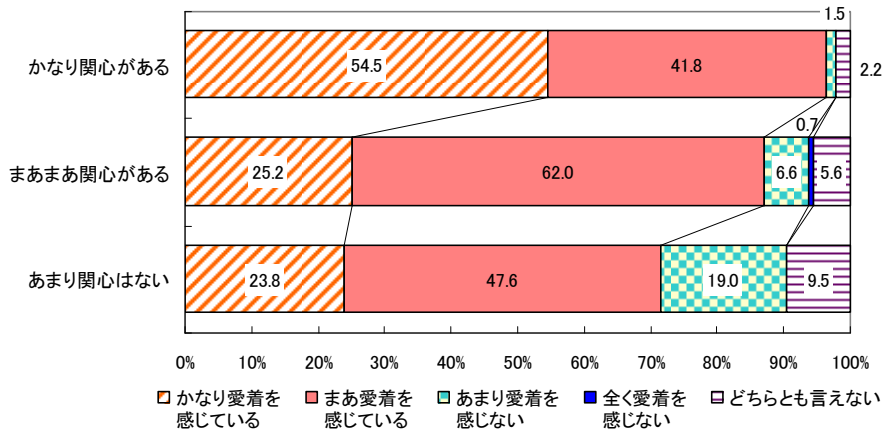
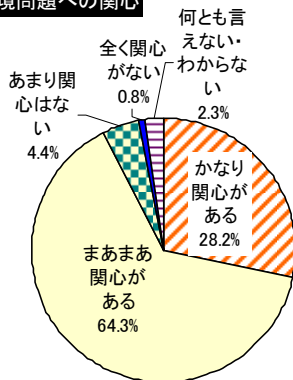
II 結果の概要

環境への関心・問題の受けとめ

日常生活の中で

環境マインド 自分が住む地域への愛着と連動

◆環境問題への関心



※「全く関心がない」はサンプル数が少ないため省略

環境問題に対する関心は「かなりある」だけで28%。総体では90%を突破する。男女に違いはほとんどみられないが、年代層では「かなりある」が高年齢層で高まり、70歳以上（以下「70代」と略記）では40%に届く。職業層では役員層、無職層で高い。

環境への関心が高いほど、今住んでいる地域（市町村）に対する愛着も連動して高まる傾向があり「かなり関心がある層」では「かなり愛着がある」が半数を超える。

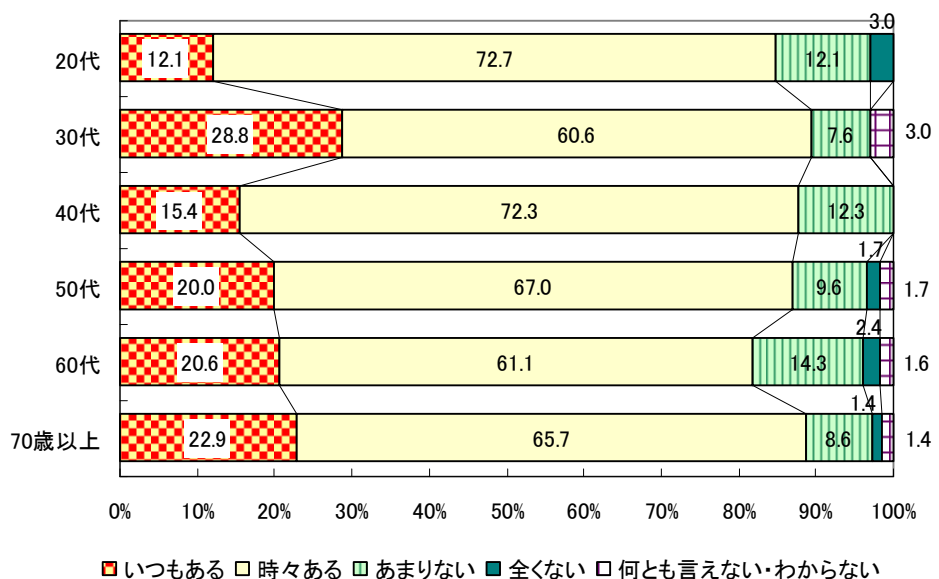
ムダが多いという自覚

「いつも感じる」20%超 30代が30%に迫り最高

環境問題を考えるうえで、自分がムダの多い生活をしていると感じることが「いつもある」が20%余。「時々ある」を含めると86%の高率を示す。

女性で「いつもある」がやや高め。年代層では30代が29%と最も高く、職業層では農林業を筆頭に専業主婦、無職層で高め。

また、東信で「いつもある」が26%と最も高く、北信も平均値を上回るが、中南信では低めになっている。

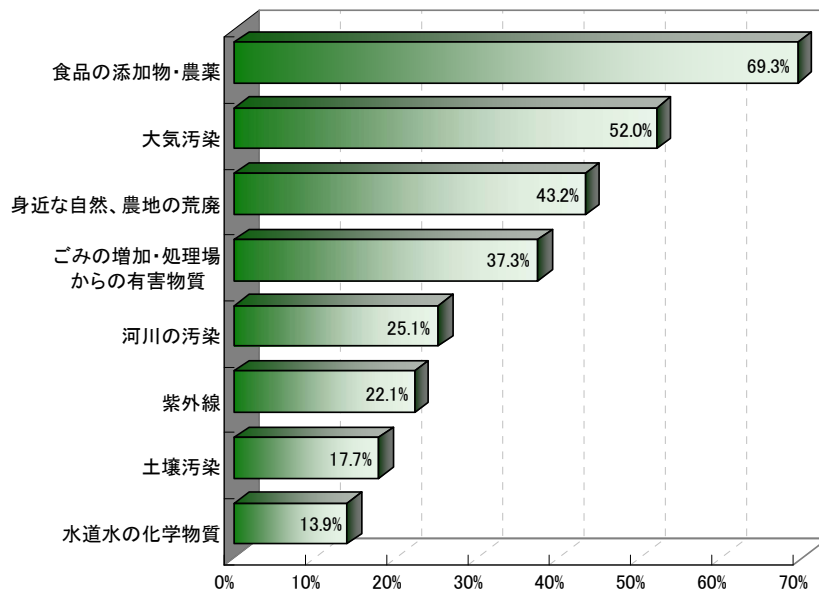


気になる環境面の心配

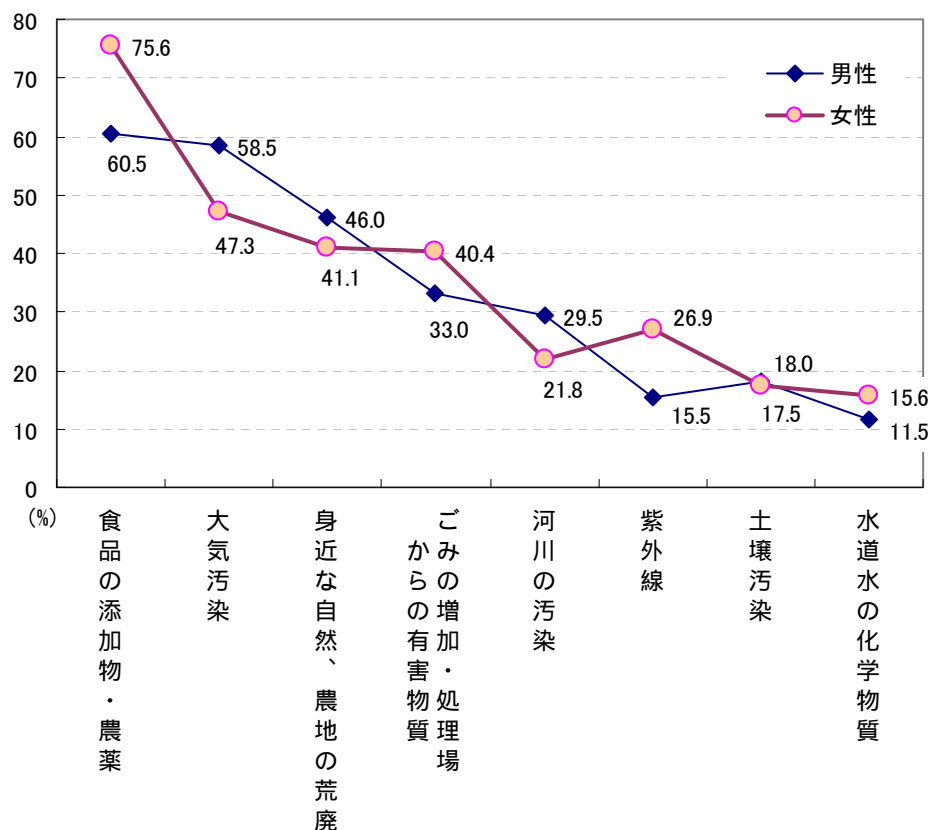
トップ「添加物・農薬」 続く「大気汚染」

ふだんの生活の中で気になる環境面の心配は「食品の添加物・農薬」が飛び抜けて高く「大気汚染」「身近な自然、農地の荒廃」が上位。「水道水の化学物質」「土壌汚染」は下位に置かれる。

地域的にみると「添加物」に違いはほとんどみられない。東信で「大気汚染」が低い反面「自然の荒廃」は高め。「ごみの増加」でも南信と並んで高めになっている。「河川の汚染」は北信がめだつ。



◆ 男女差はつきり 女性「添加物・農薬」引き離す 男性は「大気汚染」リード



「添加物」に女性の懸念が突出して、男性と15ポイントもの開きがめだつ。

「ごみの増加・処理場からの有害物質」(4位)や「紫外線」(6位)でも女性の方が敏感になっている。

「大気汚染」では男性が女性を引き離し「自然の荒廃」も高め。

年代層では40代以上で心配の度合いが高まる。

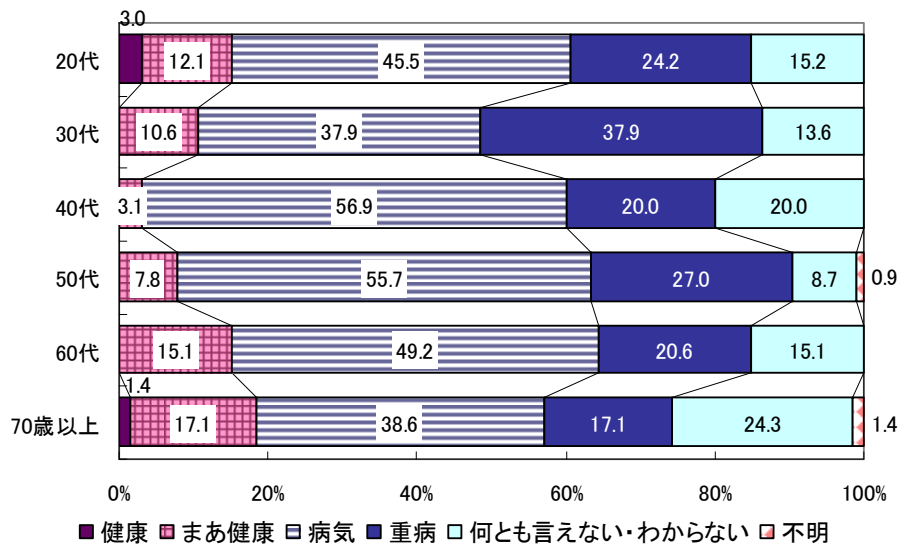
地球環境との接点

◆ 今の地球の“健康状態” 「病気」半数近く 「重病」だけで4人に1人 「健康」は10%余

今の地球環境を人間の健康に例えると「健康」との受けとめは総体で10%余にとどまる半面「病気」が約半数を占め「重病」だけで4人に1人にのぼる。

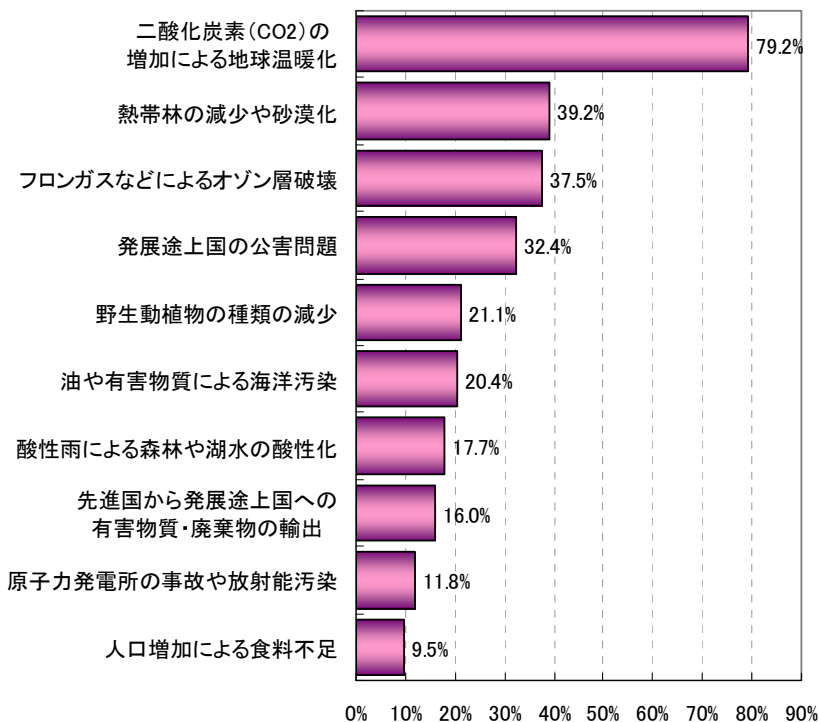
男性で「健康」が17%と女性を上回り、60代以上でも高めになる。他方「病気」は40～50代で55%を越す高率。「重病」とのシビアな受けとめは30代で40%に迫る。

環境問題に関心がかなり強い層は「病気」46%、「重病」37%といった深刻な受けとめだ。



地球環境問題への関心

「温暖化」が突出 上位に「砂漠化」「オゾン層破壊」



地球規模の環境問題で重要だと思ったり関心が深いのは「二酸化炭素(CO2)の増加による地球温暖化」が他を圧する高さ。

次いで「熱帯林の減少や砂漠化」「フロンガスなどによるオゾン層破壊」「発展途上国の公害問題」が一団となって上位に並ぶ。

他方「人口増加による食料不足」「原子力発電所の事故や放射能汚染」は下位にとどまる。

◆ 鳩山首相の「25%削減」表明 積極的な「賛成」30%台 農林業や役員層高め

鳩山首相が2020年までに日本の「温室効果ガス排出量」を1990年比で25%削減することを国際的に表明したことについて、積極的「賛成」と「どちらかといえば賛成」がそれぞれ30%余を示し、賛成総体で63%。「反対」は10%にとどまり「なんともいえない」が4人に1人を占める。

積極的「賛成」は農林業、役員層で40%前後に高まる。他方、年代層では40、20代で低く、20代は「賛成」総体で唯一半数に届かない。

